

一球通信 vol.144

*****コンテンツ*****

1. 春季リーグ戦前半戦績
2. 第103回 一球会ゴルフ会報告（鐘江様より）

3. 2019年特集・広商交流50周年に寄せて

〔1〕OBOGより

- 1) 稲垣博正様（S45年卒）
- 2) 落合健様（S46年卒）
- 3) 矢沢博之様（H5年卒）

〔2〕プレーバック交流史

1. 春季リーグ戦 戦績

4月22日現在、4試合を終えました。

都市大学との第一節は一勝一敗となりましたので5月1日(水)に第三回戦を実施予定です。

○4/13 (土) vs 都市大 1-1

一橋 0 0 3 0 4 0 3 4 1 1 5

都市 0 0 2 2 1 0 1 2 0 8

【投】木下 (3、1/3回) →鈴木 (4、2/3回) →笠松 (1回)

〔本〕佐藤 (3回) 〔三〕草ヶ谷 (5回) 阿佐美 (9回)

○4/14 (日) vs 都市大 1-2

都市 0 0 0 0 0 2 3 1 3 9

一橋 1 0 0 0 0 1 1 3 0 6

【投】木下(6回)→鈴木 (3回)

〔本〕木村 (7回)

○4/20 (土) vs 東工大 1-1

一橋 0 0 0 1 0 1 0 0 4 6

東工 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1

【投】木下 (7回) →鈴木 (2回)

〔本〕白根 (4回) 〔二〕富沢 (9回) 木村 (9回) 江角 (9回)

○4/21 (日) vs 東工大 1-2

東工 0 0 0 1 0 1 3 0 0 0 5

一橋 0 2 0 0 0 1 0 0 2 1×6

【投】佐藤 (6、2/3回) →木下 (3、1/3回)

〔三〕青田 (9回) 〔二〕白根 (5回)

今後の試合日程：

5/1 13:00~ vs 都市大

5/4 10:30~ vs 都市大

5/5 10:30~ vs 都市大

5/11 10:30~ vs 東工大

5/12 10:30~ vs 東工大



2. 第103回一球会ゴルフ会結果報告（鐘江様より）

表記ゴルフ会は4月5日(金)に千葉CC川間コースで開催されました。3年に一度HDCP修正もあり熱戦が期待されましたが、残念ながら直近のリタイアー者が4名も出、最終的には8名と少ない参加者となりました。しかし久し振りの満開の桜の元、好天にも恵まれ、楽しいゴルフ会となりました。優勝は50ヤード(?)からのチップインも含めた2つのバーディを決めた稲垣さんが優勝を飾りました。その他の結果は次の通りです。

順位	氏名	OUT	IN	TOTAL	HDCP	ネット	新 HDCP
優勝	稲垣	49	48	97	30	67	20
2位	久木田	52	52	104	34	70	28
3位	田中	51	53	104	31	73	29
4位	藤森	48	44	92	19	73	
5位	鐘江	54	43	97	20	77	
6位	竹内	47	45	92	15	77	
BB	田崎	48	47	95	18	77	
8位	井上	57	55	102	32	80	

(その他賞)

ベスグロ：藤森、ハーフベスグロ：竹内、鐘江

NP:稲垣、藤森、竹内 DC:田中、鐘江 DS:井上、久木田

大波:鐘江 小波：田崎

会計報告		
前期繰越		76,943円
収入	5千円×8名	40,000円
支出		
①賞品代		30,000円
②懇親会		21,170円
次期繰り越し		65,773円

(注：この他賞品代として次回繰り越した分が2千円あります。)

次回は参加者の皆様のご意見を参考にし、千葉 CC 川間コースで10月下旬に開催するよう調整を行う予定です。

幹事:鐘江



.....

3 【2019年特集・広商との交流50周年に寄せて】 今月号のラインナップ

[I] OBOGより

- 1) 稲垣博正様 (S45年卒)
- 2) 落合健様 (S46年卒)
- 3) 矢沢博之様 (H5年卒)

[II] プレーバック交流史

- 1) 交流20周年記念交換会(1989/11月) 時畠山先生配布挨拶文
及び、交換会参加者集合写真

(注) ; 広商野球部100年史(2000年) 一橋野球部75年史(2001年) に掲載された
両校OBの寄稿を随時紹介します

.....

【1】 広島商業高校野球部と交流50年..... 第一歩はここから

昭和45年卒 稲垣 博正

昭和43年秋のシーズンを44年卒の鐘江先輩達の尽力により3部残留で終え、稲垣が新主将となり新チームが立ち上がった。

新チームは ①新4年生は2人、しかも高校時代に野球経験無し。

(下級生を指導するスキル、実績なし)

② メンバー13名で、先発を組むのにも四苦八苦。

(卒業生にレギュラー5名、大幅戦力ダウンのスタート)

③ 当時の一橋野球部には、監督・コーチなし。

(戦略・戦術・選手起用・采配・練習..... 試行錯誤で主将が仕切る)

これから新チームをひ弱な(?)2人の4年生で、どうリードして行くかを悩んでいた時に、突然の朗報が舞い込んで来た。

「全国制覇の名門広島商業高校野球部の元監督・部長の人が、一橋商学部に内地留学生として来られている」「しかも近々国立グラウンドに我が野球部の練習を見に来ていただける」

1. 畠山先生との出会い

43年11月、国立グラウンドに現れたのが、畠山圭司先生その人であった。

これが一橋と広島商業高校野球部との50年にわたる長い交流の第一歩であった。

(畠山先生への陰の接触は鐘江先輩(44卒)と46卒新田君の尽力があった)

第一歩は、畠山先生個人による一橋野球部への指導という形でスタートした。

先生は、毎日グラウンドに足を運び、熱心に【我流の素人野球集団】の我々に、野球の基本、野球の奥深さ、知恵の野球を徹底して指導していただいた。

部員一同、毎日が目から鱗で、一つ一つの教えが「神の声」に聞こえ、文字通り心酔の日々であった。それまで「投げて」「打って」「走る」レベルの野球の我々に、1つ1つのプレーに、意味があり、意図があること、それを理解した知恵を使った野球を目指せ、と熱く語られた。人を魅了する語り口と説得力あふれるコミュニケーションの虜になる日々が始まった。

何よりも基本の徹底、愚直な練習、試合では練習で出来た事しか成功しない、広商の奇策も、完璧に出来る処まで練習して本番でサインを出す。奇策ではない。

勝つために何をすべきか……先生からの学びを50年前の事を思い出しながら語ってみたい。

2. 先生の現場指導

当時の先生の現場指導から、いくつかのエピソードを思い出しながら紹介したい。

(1) キャッチボール、ベース間ボール回し、トスバッティング、バント

基本の大切さを徹底的に叩き込まれた。中でもベース間のボール回しは毎日ノーマスで正しく出来るまで、何回もやった事を今でも思い出す。

(2) 4種のスクイズ

スクイズ、セーフテイスクイズ、パーフェクトスクイズ、2ランスクイズがあり、状況に応じて使い分ける。それぞれのプレーを練習で何度も繰り返し実践し自信を持って出来る様にする。

特に2ランスクイズを、何度も練習した。2塁ランナーは盗塁スタート、バッターは強め目のプッシュ気味のバントを投手と3塁手の間に転がし、3塁手に捕らせる。2塁ランナーは3塁手が1塁送球する間に一挙本塁に突入。これを毎日練習して、サインが出ると自信を持って出来る様に訓練を繰り返した。まさに愚直な継続であった。

(3) ピックオフプレー

①ランナー1・2塁で1塁ランナーを殺す。

②ランナー2・3塁で2塁ランナーを殺す

これは人間心理を利用したプレーで、聞いた時は目から鱗であった。

①のケースを紹介する。

投手は1球目に2塁に向けてベースに入る遊撃手に牽制球、2球目はベースに入る2塁手に牽制球。ここまでが次のピックオフへの前哨戦。

……3球目の牽制は次の通り……

投手：セットポジションで、1・2・3で無人の1塁に牽制球。

遊撃手：1・2のタイミングで2塁ベースにダッシュ。

2塁手：1・2のタイミングで、2塁に入る遊撃手のバックアップにダッシュ。

1塁手：1・2のタイミングで、無人の1塁に向かってダッシュ。

投手の投げた牽制球を、1塁後方から走り込み、ベース上で

キャッチしてランナーにタッチ（隙を突かれたランナーは呆然）。

外野手：1・2のタイミングで、各々のバックアップポジションにダッシュ。

この時の1塁ランナーの心理は、守備陣は2塁ランナーに集中、俺の事はノーマークだ、まさか無人の1塁への牽制が来るとは思っていない、という人間心理の隙をついた「まさにピックオフ」である。守備陣全員参加のこのピックオフプレーも繰り返し練習して、サインが出ればいつでも出来るという自信を持つまでやった。

- ② このケースの詳細は省くが、同様に後ろのランナーの隙をつくトリックプレーです。

3. 芸術的ノック

畠山先生は、ノックの鉄人、まさに芸術的ノックの神業を持つ人でした。グラウンドで我々の練習を見て、一瞬の内に我々の守備力、弱点、守備範囲を見極め、各人の限界ギリギリの処、しかもあと半歩の処にノックして、当該選手の守備力を向上させてくれた。私の守備位置はセンターでしたが、

・ライナー、フライ、ゴロの打ち分けは当然だが、落ちるフライ、伸びるライナー、フックする球、スライスする球を一球ごとに打ち分けてきた。

・足が速く守備範囲の広さに自信を持っていた私の前後左右にあと一歩、チクショウという打球を打ってきて、まさに日々先生と真剣勝負でノックに臨んだあの緊張感を今でも忘れない。

各人の能力の半歩先一歩先を挑戦させて成長させる先生の人材育成の要諦だと思う。

4. 畠山マジックの実践

先生との学びの集大成として、東都一部の亜細亜大学、東京6大学の東大との練習試合が組まれた。畠山マジックが何処まで通用するか？

(1) 亜細亜大学戦

先生の広商時代の教え子が亜細亜のコーチをしていた関係で、当時3部の一橋には不可能に近い一部強豪校との試合が実現した。

(先生の裏交渉で、亜細亜のエース山本和行（阪神エース）は登板しない)

当時の一橋のエースは46卒の池田君で、3部でも3本指に入る好投手であった。彼の好投で9回まで6-5でリードするも、最後は7-5で逆転負け。

この試合では、亜細亜相手に「大学生がまさかの2ランスクイズ」を2回決めて4点を取った「奇策」、まさに畠山野球の実践であった。試合終了後に亜細亜の選手が罰ランニングしていた光景を今でも思い出す。

2ランスクイズで、練習通りの3塁前の強めのバントを決めたのは、47卒の吉田君であった。あの時の2ランスクイズは「奇策」でも何でもなく、毎日愚直に繰り返し練習していた裏付けで、当然の結果であったのである。

あの当時の畠山野球の申し子は、この吉田君であったと思う。

先生は、「何でチームに貢献するのか？」を各人に問い続け、それぞれがそれに応えるために、努力を重ねた。吉田君は、非力で強打は期待出来なかったが、確実な捕球と送球で安心できる遊撃手となり、100%成功させるバントの名手として自分を磨き続けた。吉田君は自分が何でチーム貢献するかを最も理解・実践した選手であり、それが花開いたのが、あの2ランスクイズであったと思う。

(2) 東京大学戦

この試合も3-4での敗戦であったと記憶しているが、なんと言ってもあの東大相手に「知恵のピックオフプレー」を成功させた事が、強烈な思い出である。

1点を争う緊迫した試合で、東大がランナー1、2塁となり一橋の最大のピンチを迎えたその時、グラウンドの選手はベンチの畠山先生の動きを注視。

サインは出るのか？ 出た～！

選手全員に緊張が走り、あの練習通りに、1球目遊撃手に牽制球、2球目2塁手に牽制球、3球目無人の1塁に速い牽制球、後方から走り込んだ1塁手がベース上で牽制球をキャッチして、1塁ランナーにタッチ・・・・・・・・・・

まさに練習通りにピックオフが成功。この時の東大選手の驚きの表情を今でも鮮明に覚えている。

(3) 試合を終えて

亜細亜での「2ランスクイズ」、東大での「ピックオフ」とも成功要因は、練習で下記を共有できていた事だと思う。

- ① 繰り返し練習で自信を得たレベルのプレーしか試合で成功しない。
- ② ベンチと選手が、次に何のサインが出るかで思いが一致。

日頃の対話で、目指す野球と作戦について方向感を共有できていた。

強豪との2試合で、善戦し、難しいプレーを成功させて安堵？した我々に試合終了後の東大グラウンドのベンチで先生の雷が落ちた。

「野球は勝たないとだめ。」「勝つために出来ることを全て出し切り、あらゆる手（知恵）を使って必ず勝て！」「善戦なんかに何の価値もない！」

「こんな事で自己満足するようでは社会に出ても勝てない。」・・・・・・・・・・

あの先生の怒声は今でも思いだす。

5. 畠山野球から学んだ事

先生からは、野球の原理原則、野球を超えた人間学、人を育てる、社会人として大切な事、リーダーのあり方・・・・・・・・2ヶ月という短期の中で経験したのではない濃密な教えをいただいた。数え切れない教えの中で、特に私の印象に残った数点を下記に述べる。

① 野球を通して人を育てる。

先生は、野球を指導しながら、我々に社会人として通用する人間性を随所で語られた。戦略・戦術・マネジメント・リーダーシップ、人材育成・・・・・・・・。広商はプロ人材の輩出より、アマチュア野球界の指導者を育てる、野球は教育である、と熱く語られた。広商出身のアマチュア球界指導者の多さがそれを物語っている。

あの東大戦後の先生の雷・怒りの言葉も、我々が社会で通用する人材に育ってほしいとの先生の「教育と激励」であったと思う。

② 問題点はその場で解決、後回しにするな。

練習中に、問題が発生すると練習を中断して、全員を集めて「何故失敗したか?」「原因は何か?」「どう改善するか?」を議論して、解決策を具体化して、即その場で実践する、という場面が何度もあった。これも社会人になって、現場で学んだ「トヨタ生産方式」の先取りともいえる。

③ 奇策・奇跡はない、練習で鍛え上げた事しか試合で成功しない。

世に広商の奇策・奇跡と言われるが、奇策でも奇跡でもない。当然の結果である。あれらのプレーは徹底的に愚直に練習を繰り返して、自信を持って出来るまで鍛え上げた結果である。

そのことは、我々が成功させた「2ランスクイズとピックオフプレー」も、奇策ではない、当然のプレーだと我々が体験することに重なる。

④ 自分は「何でチームに貢献出来るか?」を問い、その強みを磨け!

全員がエースと4番で構成出来るチームはない。自分の強みを自覚して鍛え上げろ。個性があり、それぞれの強みを持った選手のハーモニーを最大に発揮させるのがリーダーの力量である。

守備とバントの名手吉田(47卒)、剛速球を磨いた木村(48卒)、強肩の落合(46卒)、クレバーなピッチングを極めた池田(46卒)、裏方に徹した名マネージャー小川(46卒)・・・・・・・・多彩な個性あるメンバーが強みを磨いてチームを支えた。

これらの個性ある選手のハーモニーをまとめあげられなかった自分のマネジメントとリーダーシップの未熟さが悔やまれる。

⑤ 勝負は相手を読み、相手が想定していない策で、相手をだましてでも、

その時に成功確率の高い作戦を選択する。例えば・・・

県予選でドラフト候補の豪腕エースを抱えたライバルチームと、準決勝で当たることを想定して、1回戦からランナーが出ると全て盗塁させる。バッターはバントの構えでアシストして、投手の投前ダッシュを引き出す。ネット裏のライバル校

スコアラーに「今年の広商は盗塁」とインプットすることが目的のダミー作戦。

準決勝では、ランナーが出ると盗塁警戒の相手エースに牽制球を多投させ、バントの構えで投前にエースをダッシュさせるが盗塁はしない。これを繰り返して、エースに疲れが見える後半になると、「普通の投手になったぞ! ここから攻めろ!」で豪腕エースを攻略して甲子園へ行く。

勝つ為には、知恵を絞って、出来る事は何でもやる、強者に対抗する為知恵と戦略を駆使して戦う広商野球の真髄か？

戦術レベルでも、我々がやった2ランスクイズ、ピックオフプレーにも、その片鱗が見える。野球は知恵のスポーツである。

6. 最後に

畠山先生との2ヶ月は、野球の奥深さ、練習の大切さ、知恵の野球、戦略と戦術、マネジメントとリーダーシップ、人材育成・・・初めて野球を真剣に考える濃密な体験を我々に残した。

残念ながら、44年はリーダーの私の未熟さと消化不良で、先生の教をチームに落とし込めないまま1年を過ごし、一橋野球を変えるまでには至らなかった。

4年生2人体制(後半は一人)で、2シーズン入れ替戦なしの3部で後輩達にチームを渡せたのも畠山先生の教が私を支えてくれたのだ、と今でも確信している。後輩の46年卒の後藤主将達の世代から、広島遠征・合宿が始まり、先生との個人的交流から広商・一橋の野球部同志の組織間交流へ発展し、今日の50周年交流への道が拓かれた。その第一歩が福屋君(45卒)と私の期であった事は、事実であり誇りとしたい。付属関係でもない大学と高校の野球部の交流が50年にわたって続いている奇跡を今後も75年、100年と伸ばして、交流関係を発展させてほしい。

社会人なっても、組織を預かり、部下を持つようになって、判断に迷うと、畠山先生ならどう決断するか、どうマネジメントするかを自問自答してきた。私を一人前の社会人として育ててくれたのは、一橋野球部での体験であり、畠山先生の教である。今でも私の人生の師は、畠山圭司先生である。

7.あれから50年・・・交流の再構築と一橋野球の確立

広商との交流は、色んな変化・発展を遂げて来たが、関係のマンネリ化も見えはじめていた。平成21年、一球会鐘江会長から、副会長の私に、広商との交流を見直し、野球部間の組織間交流から学校間の公式交流関係に再構築して、マンネリ化を打破したい。ついては君が広島を訪問して広商の学校関係者、野球部関係者と面談して改善案を模索して関係の再構築を探してほしい、との依頼があった。

早速、広商京浜支部の幹部・田所康弘氏(48年全国制覇のメンバー)に、広島商業高校への一球会副会長稲垣の訪問を打診していただき快諾を頂いた。

平成 21 年 11 月、田所氏に同行いただき関係改善の為の広島訪問が実現した。
面談いただいた広島側メンバーは、下記の重鎮で広商側の本気度が示された。

益田博文広島商業高校校長 保田昌志広商OB会会長

中野英雄広商野球部父母会会長 花坪研広商野球部部長

池田英徳広商野球部副部長 桑原秀範広商野球部監督

- ① 広商としても一橋との交流は、意義を感じており、さらなる発展を期待する。
- ② 一橋側は、学生の広島遠征で、強化希望ポイントを事前にレポートする。
- ③ 広商側も、この事前レポートを参考に、指導方針を立案して受け入れる。
- ④ 今後とも、一橋・広商は、交流の更なる発展を期して、双方で努力する。

この広島訪問で学校間公式交流関係構築、広島遠征の見直し等の変遷を経て
交流はここに 50 周年を迎える。第一歩を踏み出した身としては感慨無量である。

畠山先生が埋め込んでくれた「愚直な基本プレーの徹底」「練習で出来る事しか試合で出来ない」「ベンチと選手間での野球観の一致」「野球は知恵と頭のスポーツ」「自分は何でチームに貢献するかを自覚した選手」・・・を一橋野球に定着させる事は、私の代では不完全燃焼に終わり、46 年卒後藤主将以降の後輩達の広島遠征を通した地道な取り組みに委ねられた。

あれから 50 年、広商との交流で学んだ野球が、一橋の野球に何処まで埋め込まれているか、埋め込みに成功しなかった交流一期生として、下記をお願いして筆を置きます。

50 周年の節目に、一橋野球部は、広商との交流で学んだ「野球の原点」に立ち返り、「強者に立ち向かう知恵の野球」を追求し「パワーと知恵を具備した一橋野球」を確立してほしい。

以上

【2】 『畠山圭司先生との出会い』

昭和46年卒 落合 健

今から約20年前、50代を迎えた頃、20代・30代の若い人が大勢いるシステム開発の会社に勤めて居りました。下記の文は、その頃の社報に”縁あって良き指導者の下で野球を通じて教わった「人生訓」の類”として紹介したものです。

文中にある”先生”は、甲子園で何度も優勝した広島商業野球部の監督をされていた畠山先生で、内地留学ということで大学にコンピュータの勉強をしに来られ、高校に戻られてからは教頭・校長になられ、定年退職後は地元広島の会計学院専門学校の学校長に就任、野球部を創設され全国会計専門学校大会で優勝するチームを育てられた方です。

いまは故人（2006年4月19日逝去、享年75才）。

『ある出会いから学んだこと』

.....(略).....

当時、部長・監督は名簿上にはおりましたが、グラウンドでの練習および試合はすべて4年生の指導・指揮の下で行なわれておりました。実力のある指導者がいない状況で、技術的なレベル・戦術面ともに草野球の域を出ない野球部であり、2桁の失点で負けることも多く、1桁の失点で敗れた時には「今日は試合になった」との発言が上級生の口から出るほど弱い野球部でした。したがって勝った時の喜びようは、それはそれは大変なものでした。

2年の夏、秋のリーグ戦に向けて練習を開始した数日後、普段は見ている人など全くいないベンチの横におじさんがひとり立っておりました。マネージャーの集まれる声に、皆は練習を中断してその人の周りに集まりました。

「こうこうこういう者で、内地留学で1年間大学に勉強に来ている。一緒に野球をやらせて貰えんかのう」と。部員一同、腰を抜かささんばかりに驚きました。

このおじさん、ある期間に春夏あわせて15年間で15回甲子園に出場した野球名門高校の先生で、1年前まで野球部の監督をされていた当時30代後半の方でした。

この先生との出会いにより、それまでの”草”野球部はそこそこのレベルの野球部に大きく変身することが出来ました。

練習・試合を通じていろいろなことを教わりましたが、いちいちごもつものことばかりで、その中からいくつか以下に披露させていただきます。野球に関心のない方には少々わかりづらい点はあるかと思いますが、野球の教えとしてのみではなく、人間あるいは人間心理についてちょっとした教えとしてお読み頂けると幸甚です。

①翌日から1ヶ月間はキャッチボールの練習のみ。バッティング練習はさせてもらえず、相手の胸にボールを投げることで、それだけを繰り返しやらされた。我々の基本ができていなか

ったことを見抜かれ、野球の基本であるボールをキチンと投げることから徹底させられた。「ただ投げればいいのではない。ボールを受けた相手が次に送球しやすいように、次のことと相手のことを考えたプレーをきなさい」との教えでした。

②1ヶ月後、守備練習が始まった。キャッチャーをしていた私はノックをする先生にボールを渡すトス役。先生が受け取りやすそうな所にボールをトスしていたが、こう云われた。「ボールが回転している。ノックする人が受け取りやすいように回転させないで渡しなさい。ノックの効率が上がれば、1本でも2本でも多くノックができる」と。

③1死走者1塁で打球は1塁ゴロ。ファーストはダブルプレーにするために捕ってすぐ2塁に投げ、ショートが2塁ベースの真上で受け1塁に転送。すかさずショートに「何でベースの真上でボールを受けるんだ。君と1塁ランナーが交錯してファーストが投げづらいだろう。1塁と2塁を結ぶラインのファーストがゴロを捕った側に上体を出してあげなさい。そうすれば1塁ランナーと交錯せずファーストが投げやすいだろう」。

④無死満塁で内野ゴロ、内野手がバックホーム、キャッチャーはダブルプレーを狙い1塁に転送。「ホームベースのどこを踏んで内野手からの送球を待つか？」と問われた。”1塁に早く投げるためにはどうするのがベストか？”の質問と判断した私は、ホームベースの1塁側の角を踏んで「ここです」と得意気に答えた。Xバツ!。「ホームベースのど真ん中を踏んでボールを受けなさい。角を踏んでいたらスパイクの踵が上がってホームベースを踏んでいないミスが起きる。甲子園で実際にあったプレーで、その1点に涙を流した高校があった。人にはミスが付きもの、人は必ずミスを起こす。ミスを起こしてもミスにつながらないように、ど真ん中を踏みなさい。ど真ん中を踏んでいけば間違いない」。

⑤練習中の3塁ランナー。キャッチャーがピッチャーにわざと悪返球、ボールはピッチャーの頭上を越えセカンドベースの方に転がったが、3塁ランナーは練習だからと本塁に走らず。「何で本塁に走らんじゃ、試合のつもりで練習せい。試合のつもりで練習せんかったら、練習のための練習にしか過ぎん。バカもん、グラウンド2周!」の叱責。3塁ランナーは私でした。

⑥ブルペンでの投球練習時、キャッチングについて。「捕る瞬間にミットを突き出して音を立てて捕ること。ピッチャーには今日はボールが速いと思わせ気分良く投げさせることができるし、バッターにはボールが速いと勘違いさせることができる。野球は頭を使ってやるものだ」。

⑦試合後のミーティングについて。「負けた試合では悪かったプレー、反省すべきプレーは

皆わかっとなる。だから短い時間でいい、長くやったら気が滅入るだけだ。その代り、勝った時には長くやりなさい。人間は勝ったということで悪かったこと、直さなければいけないことを忘れてしまう。常にレベルアップを図ることが大切。人間は有頂天になった時が気を付ける時であり、反省すべき時です」。

⑧試合でバッテリーに先生から”打て”のサイン。この”打て”のサインには実は2通りの意味があり、先生の拳がグーの時は本当に打て、親指と小指を立てた”W”に似た形の時はW a i t i n g (打ってはいけない)。このWに似た形のサインの時には、ベンチにいる全員で「打て打て！」の大合唱。「人をだます時は一人でだますより大勢でだました方が効き目が大きい」。

⑨「他の高校の監督が教えてくれと言ってきたら、今やっていることは何でも教えてあげる。真似するには時間が掛かるし、私等はずっと創意工夫して新しいことを考え、先を行っているから全然困らない。真似された時には私等はずっと新しいことをやっている」と自信満々。

創意工夫のひとつにダブルスクイズ(ツーランスクイズ)がありました。1死ランナー2塁3塁でバッテリーはピッチャーの横にスクイズ、3塁ランナーはホームに生還しスクイズ成功、それを見たピッチャーはゆっくり1塁に送球。ピッチャー心理を読んで、ピッチャーの指先からボールが離れた瞬間に2塁ランナーもホームに還る、これがダブルスクイズ。

先生がいつかやろうとしていたこのダブルスクイズを、春のリーグ戦を前にした亜細亜大との練習試合でしたが初めて成功したのが弱小野球部だった我々で、1試合で2度成功し4点とることができました。このプレーは他人に話しても誰も信じてくれなかったようですが、このあと先生の高校が甲子園に出た時に成功させ、以来全国的に知られるプレーになりました。

なお亜細亜大はこの時の春のリーグ戦で1部優勝しております。

延長⑩ウィスキーの水割りグラスを傾けながら先生を囲み数人で歓談中、「最終回の攻撃、0対5、無死3塁、打者が深い外野フライ、3塁ランナーが君ならどうする？」との問い。目先の1点のために走るのではなく、点差を考え走者を貯めて相手に楽に守らせないこと。正解はタッチアップせず本塁に走らない。

以上、野球に因み9つ(+延長)記述しました。野球のことと云ってしまえばそれまでですが、社内外を問わずに人と人との関係を大切にしてビジネス社会で生きるために、またトラブルを引き起こさずに精確さが求められるこの会社を益々凛然とした会社にするために、何かひとつでも役立つことがあれば嬉しく思います。
以上です。

【3】 「広商との交流の思い出」

平成5年卒 矢澤 博之

今井会長、広商交流ご担当佐治先輩、飯島先輩をはじめとするOBの皆様、並びに現役の皆様、この度は広商との交流の思い出を寄稿する機会を頂き、有難うございます。平成5年卒の矢澤博之と申します。一年生の冬と、三年生の冬に、広商合宿に行きました。一橋大学野球部に所属していたのは30年程前で、記憶が曖昧な部分もありますが、広商合宿については、特に一年生の広商合宿2週間で今でも印象に残っています。野球の技術の高さ、深い知識という面もさることながら、関係者が一丸となって甲子園を目指して日々取り組んでいた姿に触れて、集団としての強さや伝統を感じました。当時の気づいたことを以下箇条書きしたいと思います。

1. 校舎から出て部室に入り、着替えてグラウンドに出るまでの尋常でない速さとグラウンド整備の速さ：
アンダーシャツ、ユニフォーム、靴下も身に着ける順番で準備しており、ユニフォームで出てくるまでの一連の動きには感動を覚えました。グラウンド整備も一流でした。
2. アップの速さ：
当時はダイヤモンドより大きめの行程を、ゆっくり1周、全速力で4週を2回、計10週がアップでした。ホームベース側とセカンドベース側、二手に分かれて反時計回りに走りましたが、かなりの速度で、集団から遅れてもう片方の集団に吸収されてしまう、という様子も見られました。
3. キャッチボールの速さ：
矢のような送球を続けながら瞬く間に(確か)60m くらいまで距離を広げていく、冬で寒かったですが、かじかむ手をもろともせず、これを集団で行う姿は美しさを感じる程でした。
4. 野球の知識、技術：
ワンアウト2・3塁で必ず成功するツーランスクイズはどこに転がすか、雨の日のボールの握り方、バントの基礎、スイング時の前足の踏ん張り方等、勉強になるところは多かったですが、頭で理解するのと実際にそのように動けるかは別物、力不足で2週間の間に大きく上達することはありませんでした。
5. 要領：
日々厳しい練習を積み重ねる選手達から、「要領」ということばを聞きました。これは無駄なくやるということの他に、いい意味で手を抜かないといけないこともあるという意味で

使われていたと思います。

6. ホームステイ：

檜山捕手のお家にお世話になりました。明るく暖かいご家庭で、美味しいご飯、洗濯をはじめ、大変お世話になりました。お家に帰ると部屋がすでに暖まっており、感動しました。家族が一丸となって広商野球を支えていることを実感しました。一度、広島風お好み焼きを食べに行きました。大阪出身の私は大阪風お好み焼きと違う美味さを知りました。

7. 懇親会：

畠山先生、達川さんのお話を正座して聞いたこと、金光監督がカラオケの時「慣れですよ、場数を踏めば大丈夫」とおっしゃっていたことを覚えています。野球の達人は野球以外の部分でも人間力、魅力があることを、肌で感じました。

人生、日本経済、野球部、あらゆるものに山と谷 (Peaks and Valleys) が訪れると思います。個人の心がけとしては、どちらに在る時も、広商合宿で感じた、志の高い個々の集団が、愚直に、平凡を非凡に努める姿を時折思い出して、襟を正して生きていきたいと思ひます。

これまで広商合宿に関与された全ての皆様に改めまして御礼申し上げますとともに、一橋大学野球部、広商野球部が、それぞれの山、頂きに到達し、末永く繁栄することを、お祈りします。

〔II〕 プレーバック交流史

「広商野球部90年小史より」 <交流20周年記念交換会>

平成元年11月17日

一橋大学野球クラブ秋季大会で、本校野球部との交流20周年記念のセレモニーが、東京・神田・一橋・如水(じょすい)会館で開催された。当日広商側から出席したメンバーは、直接交流があったOBで、東京在住の卒業生35名が出席した。

当日配布された交流二十周年記念の資料を紹介する。

一橋大学野球クラブ秋期総会

一橋大学硬式野球部・県立広島商硬式野球部

交 流 20周年記念

日 時 平成元年11月17日(金)18時30分から

場 所 東京・神田・一橋・如水会館

主 催 一橋大学野球クラブ

県立広島商高校野球部

(敬称略)

<交流20周年記念・畠山先生配布資料>

一橋大学硬式野球部と県立広島商業硬式野球部とが交流を開始したのは昭和45年8月である。

一橋大学硬式野球部後藤信之主将(昭和46年卒)は、三商大定期戦出場のため、広島でキャンプを張り、その準備をするために訪れたものであった。当時のメンバーは池田・新田・山崎・落合・町田・中田とマネージャーに小川満、一年下に乙黒・森脇・吉田、二年下に今井・明治・木村・野屋敷・竹内・野間・橋本・石井等が在籍し、一年生には原岡・浅見・見目・寛等がいた。

この交流のきっかけは、その二年前、昭和43年に遡る。

現校長畠山主司が県教育委員会の命により、一年間長期特別研修生として一橋大学商学部において「経営と管理」をテーマとして学び、山城章教授に師事したことによるものであった。研究目標に目安を立てた頃山城教授は、畠山に「指導してやって欲しい。」と頼んだ。山城ゼミが九月下旬から始まった校内ゼミ対抗ソフトボール大会で優勝し、非常に活発になっていたからであった。

昭和43年11～12月の一ヶ月間、ユニフォームに着替えて、ノックバットを握り学生も一生懸命に挑戦した。終わりが近づいた頃、東京工大・亜細亜大・東京大学等とオープン戦を行った。選手たちは、思いがけなくも好成績をあげたことに驚きを感じ、このことが今日の交流の原点になっているように思う。

名前は大学野球でも力量は未熟である。「広商に野球を学びたい」という雰囲気が部員の中にあっただように思う。これらの三試合のリーダーは昭和45年卒の稲垣博正主将で、同期に福屋貴司もいた。

昭和43年畠山の特別研修時代、一橋大の主将は鐘江健一郎で井上(三)大内・濱・浅岡・井上(庸)が最上級で、卒業が目前であった。

昭和43年一橋大で長期研修を終えた畠山は、広商へ戻り44年秋から野球部長に就任した。

「部員の進路をいかに保障することができるか。」真剣にかんがえていた畠山は、一橋大学野球部の申し入れに対して、「両者が共に指導し合う」というシステムを提案し、「広商は野球を、一橋は勉強を共に指導し合う」ことを確認し、その第一陣として昭和48年卒の今井鉄郎第二陣として翌年昭和49年卒の原岡健一郎等が広島を訪れた。それ以後、次年度の主将が一年生部員を引率し、12月中旬から一月中旬までの一ヶ月間、三年前からは12月中旬から12月末日まで二週間、勉強と野球の交流は続いている。8月中旬のチーム全体の交流は、広商の甲子園出場(15年で15回春夏出場)があると十分な練習が出来ないという理由と、四年生の就職のための会社訪問が同時期に重なるため中止し、12月の暮、年二週間の交流となっている。

歴代の主将で広島を訪れ、部員を引率し、交流を実践した者と、当時の広商の主将と、三年生だけの人数を記してみた。

このように、両校野球部の交流は、現在まで継続しているが、継続は関係者の盛り上げる力と、交流そのものの趣旨とが、双方の関係者に理解されてこそ成り立つものであり、自分達の学校とか、クラブがさらに誇れるものになるように、関係者の小さな努力が貴重な歴史をつくっていくものである。

「広商野球部90年小史」 以上



平成元年11月17日 興立広島商業高校硬式野球部・一橋大学硬式野球部交流20周年記念交歓会 於 如水会館

<交流 20 周年記念交換会・出席者（敬称略）>

【広島商業高校硬式野球部】				【一橋大学硬式野球部】				現役	氏名
卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名		氏名
校長	畠山 圭司	昭56	川崎 泰介	昭13	坂田 哲夫	昭56	坂本 雅明	4年生	祖父江政雄
監督	金光 興二	昭57	川崎 護	昭14	南 丁巳知	昭56	村松 政博		赤城 将之
前監督	川本 幸生	昭61	秋本 憲秀	昭16	田辺 一男	昭56	久米 一也		丸山 勝巳
元監督	桑原 秀範	昭62	板倉 正典	昭26	土井 卓夫	昭57	岩井 法夫		山口 斉
昭47	古賀 正	昭62	竹本 学	昭26	清水 典郎	昭57	岡本 哲郎		佐藤 明
昭47	濱田規久二	昭62	本広 巖生	昭26	橋本 誠一	昭61	小野 和博		佐藤 裕
昭47	丸山 芳之	昭62	村尾 泰蔵	昭27	村田 真昭	昭61	古西 宏治		阪木 雅明
昭47	山下 兼正	昭63	大田 勝博	昭28	服部 幸且	昭61	鈴木 利幸	3年生	菊池 優徳
昭49	大城 登	昭63	吉川 英寿	昭33	小山 信	昭61	黒野 逸資		上野隆一郎
昭49	田所 康弘	昭63	松下 浩三	昭39	佐藤 堅一	昭63	田沼 一彦		三木 憲明
昭49	佃 正樹	平 1	景山 隆	昭46	落合 健	平 1	鷺見 健夫	2年生	板部伊三雄
昭50	町田 正照	平 1	井上 寛和	昭47	森脇 康央	平 1	中野 雄一		小出 昌平
昭52	山岡 英治	平 1	重広 和司	昭48	石井 大介		(33名)		山下 祐治
昭52	海老原賢児	平 1	尾崎 健司	昭49	原阿健一郎				村田 温
昭53	坪下 謙二	平 1	伊藤 正	昭51	飯島富士夫				山本 啓文
昭53	川西 孝仁	平 1	中東 政憲	昭51	佐治 誠			1年生	八木 律
昭54	日高 浩美		(37名)	昭52	伴野 誠				犬飼 一雄
昭55	東久保博昭			昭54	高木 正信				小松 一光
昭55	勝田 公裕			昭54	高島 正次				栗原 孝行
昭55	狭間 伸一			昭54	藤本 啓一				矢澤 博之
昭55	神泉 和弘			昭55	中村 吉之				濱口 政巳
									牧野 章房

・一橋大学OB:リボﾝ ・広商OB:名札 ・学生服:現役大学生
 ・前列中央に広商畠山校長と一橋土井OB会会長、前列右端に金光監督

今月も一球通信を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。春リーグは1戦も落とせない状況が続いています。直近の東工大戦では9回裏2アウトから追いつき、サヨナラへ繋ぐなど手に汗握る展開でした。残るリーグ戦も勝利を重ね3部昇格へ向かっていきたいと思います。

また、現在新入部員として選手10人、マネージャー3人が入部しました。我々新2年の代は人数が多いと言われていましたが、同じくらいの人数が入部してくれたことに驚くとともに、活気づくだろう部活に期待でいっぱいです。上級生を脅かすような選手としてぜひ活躍してほしいと思います。5月号で簡単に新入部員の紹介ができればと思います。今後ともご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

一橋大学硬式野球部

2年マネージャー 浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com